

# 国際理解教育を求めて

## 第 61 号

令和 4 (2022) 年 3 月 日

発行 十勝地区国際理解教育研究会 代表 川上 裕明

担当 広報部 (鹿追町立瓜幕小学校内)

### 「空気」感

十勝地区国際理解教育研究会

会 長 川 上 裕 明

(帯広市立大空小学校)



カレーライスのにおいの、破壊力はすさまじい。

下音更中学校に勤務していたことがあった。音更町ではそれぞれの学校に給食調理室があり、4 時間目にもなると校内には給食のにおいが漂いはじめる。

「今日はカレーじゃね？」

生徒のつぶやく声に「はいはい、集中！」と声をかけ、教師のテンションも密かに上がりながら、期待と空腹に包まれた授業はまったり終盤へ。

平成 6 (1994) 年 4 月、香港日本人学校に赴任するため降り立った啓徳空港 (人口密集した香港市街地にあった世界有数のハブ空港。林立する高層ビルの軒先を旅客機が 2~3 分ごとに飛び交い、「着陸した飛行機の羽根の先に洗濯物が引っかかっていた」という逸話もあながち冗談と言い切れない説得力) で、熱気と湿気と八角の香りに包まれた。雪の帯広空港を発って 2 日後、29 歳にして生まれて初めて触れた「異国の空気」であった。

30 分ほどバスで移動し中心部へ、鼻が 2 回転するような異臭が漂ってきた。酸っぱ腐ったにおいが、体にまとわりついてくる。においの元は、街角あちこちでかまえる屋台の巨大な鍋か？夕食会場に案内される道々、夜の街いっばいに広がるにおいに「うげー」「こんな街に住みたくない」「今すぐ十勝に帰してくれ」と本気で思った。後に、「臭豆腐 (発酵液に漬けてこんで灰緑色になった豆腐)」を揚げたものだを知る。「揚げて甘辛タレをかけると香ばしくて美味」と聞いたが、香港在住の 3 年間、一度も口にすると勇氣はなかった。そもそも、何故わざわざ腐らせる？そして揚げる？

その夜のパーティーでは、巨大な魚の姿蒸しにネギと緑の葉っぱが山盛りのついた料理が登場。ところが、初対面の緑の葉っぱは、やたらカメムシ臭がする。数年に一度大発生し秋口になるとどこからともなく茶の間に不法侵入してくる、ヤツと同じにおいである。魚の身から慎重にカメムシを (……) 取り除く私に、香港の現地スタッフは「你做セ野做精細工作呀？ (なんでそんなにチマチマしてんの?)」と笑った (とあとで知った) が、「香菜」とか「パクチー」とか「コリアンダー」とか正式名称を聞いても、カメムシと食卓を囲むのは人としてムリ。

香港生活も半年ほど経つと、街を漂う八角の空気にもすっかり慣れ、街市で生きたまま売られている家畜のにおいも、重慶大廈 (半島部尖沙咀にある魔界ビル) のインドスパイスのにおいも好ましく感じるようになった。学校に向かう砲台山道のにおいは、轟音を立てて駆け上がる 2 階建てバスの排ガス (嫌いじゃない)。電車通りの朝はお粥と朝飲茶と揚げパン。DFS の香水のにおいも、ビーチのココナッツオイルのにおいも、記憶は空気と共にある。香港での勤務を終えて 3 年ぶりに帰国した夜は、新橋デパ地下のしょっぱい煮物のにおいに涙が出た。十勝の秋は日甜のにおいか。我が家には、東風が吹くとインデアンカレーのいい香りが飛び込んでくる。

世界中がネットでつながり、会話や会議はオンライン。便利になった一方で、においや「空気」が届かないもどかしさもあります。「百聞は一見にしかず」、リアルの空気を大切にしたい。

ちなみに、パクチーは現在帯広の我が家で絶賛栽培中です。サラダにもチャーハンにも、どっさりのつけて食べます。

事務局長 越智 卓  
(帯広市立明和小学校)

- 4月23日（金） ○事務局会議 稲田小学校  
・総会の開催方法検討

5月6日（木） ○役員会 大空小学校  
・総会開催に向けた調整  
・研究大会の方向性検討

5月15日（土） ○総会 大空小学校と ZOOM による開催

会 長	川上 裕明	帯広市立大空小学校	校長
副会長	森本 聡	豊頃町立豊頃小学校	校長
〃	稲葉 珠樹	音更町立柳町小学校	校長
〃	野中 利晃	帯広市立稲田小学校	校長
〃	笠松真一郎	幕別町立古舞小学校	校長
〃	河井 義徳	幕別町立明倫小学校	校長
研修部長	野田 剛	浦幌町立上浦幌中央小学校	教頭
研究部長	益子 忠行	音更町立鈴蘭小学校	教頭
組織部長	古村 俊大	音更町立下音更中学校	教頭
広報部長	佐々木敦史	鹿追町立瓜幕小学校	教頭
事務局長	越智 卓	帯広市立明和小学校	教頭
事務局次長	新井 英樹	帯広市立啓北小学校	教頭
〃	合田 真晃	帯広市立北栄小学校	教頭
〃	多田 明寿	新得町立屈足中学校	教頭
会 計	大西 啓就	音更町立東土狩小学校	教頭
〃	磯谷 麻江	帯広市立柏小学校	教諭
監 査	猪股 宏亮	池田町立利別小学校	校長
〃	上坂 寛	帯広市立東小学校	校長

○第1回役員会 総会終了後  
※関係機関への挨拶は感染症対策の視点から実施を見合わせ、電話連絡とした。

5月21日（金） ○大豆の会（橋場校長、村松校長、川上校長、越智教頭） Zoom 開催

6月17日（木） ○大豆の会（橋場校長、村松校長、川上校長、越智教頭） Zoom 開催

7月16日（金） ○第2回役員会 Zoom 開催  
・第42回十勝地区国際理解教育研究大会の開催について検討  
・「世界のともだち2021」の確認

9月7日（火） ○第3回役員会 Zoom 開催  
・第42回十勝地区国際理解教育研究大会のオンライン開催の決定

10月8日（金） ○会場校との事前打ち合わせ

10月21日（木） ○事前準備（事務局・実践発表者・研究発表者）

10月22日（金） ○第42回十勝地区国際理解教育研究大会

【授業公開】

- ・「おそうじピカピカだいさくせん」 1年 特別活動（学級活動）  
帯広市立明星小学校教諭 渡部 実里
- ・「世界の小学生」 4年 道徳科  
帯広市立明星小学校教諭 山本 未央
- ・「山岳民族の文化を守る」 1年 道徳科  
帯広市立帯広第四中学校教諭 坂本 将人

【実践発表】

- ・帯広市立西陵中学校主幹教諭 武山 公之
- ・芽室町立芽室西小学校教諭 畑中 美佳

12月 9日（木） ○第4回役員会 大空小学校とZoomによる開催  
・第42回十勝地区国際理解教育研究大会の反省

1月 7日（金） ○北海道国際理解教育研究協議会 理事総会・研修会（書面開催）

2月 ○第5回役員会議

3月 ○派遣教員激励会（激励訪問に変更予定）  
○会誌「国際理解教育を求めて」第61号発行

- 北海道国際理解教育研究協議会副会長 川上 裕明（大空小）
- 北海道国際理解教育研究協議会事務局次長 越智 卓（明和小）

## 研究部

研究部長 益子 忠行  
（音更町立鈴蘭小学校）

○ 活動経過報告

(1) 9月9日 第1回研究部会（Zoomでのリモート開催）

① 令和3年度研究概要について

② 令和3年度十勝地区国際理解教育研究会での研究授業の指導案に係る競技・検討について

- ・小学校1学年 特別活動「おそうじピカピカだいさくせん」

授業者 渡部 実里 教諭（帯広市立明星小学校）

- ・小学校4学年 特別の教科道徳「世界の小学生」

授業者 山本 未央 教諭（帯広市立明星小学校）

- ・中学校1学年 特別の教科道徳「山岳民族の文化を守る」

授業者 坂本 将人 教諭（帯広市立帯広第四中学校）

③ 令和3年度十勝地区国際理解教育研究大会に係る日程の確認について

(2) 10月20日 第42回十勝地区国際理解教育研究大会に係る授業別分科会の打ち合わせ

（Zoomでのリモート開催）

(3) 10月22日 第42回十勝地区国際理解教育研究大会帯広大会

○ 令和3年度研究概要について

(1) 研究主題（3年次計画の2年目）

多様な世界に関わり続ける行動力を身に付けた児童生徒の育成

～世界に関わり何ができるかを考え、主体的に行動する学びの創造～

(2) 国際実践力の育成を目指して

国際実践力の育成のためには、学校教育活動全体を通して、教科等横断的に求められる基本的な基礎力、それに基づいて様々な課題を解決するための思考力、さらにその使い方を実生活で活用していくための実践力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養う必要がある。

十勝地区国際理解教育が目指す国際実践力とは、地球的視野に立って、主体的に行動するために必要と考えられる態度・能力を育成するための教育を通して、世界と関わるよさ・楽しさを行動化につなげる力と考えている。「世界に触れる」「世界を考える」「自分と世界をつなぐ」を意識した活動を、体験的な学習や問題解決的な学習に設定し、国際BASICのさらなる充実を踏まえた研究を推進する。

## 研修部

研修部長 野田 剛  
(浦幌町立上浦幌中央小学校)

○ 活動経過報告

(1) 5月15日(土) 令和3年度総会(Zoom開催)

- ① 令和2年度活動報告、会計決算報告
- ② 令和3年度活動計画、会計予算案
- ③ 令和3年度国際理解研究大会について

(2) 7月16日(金) 第2回役員会出席(Zoom開催)

- ① 第42回十勝地区国際理解教育研究大会(帯広大会)実施要綱確認
- ② 研修部の事前準備・当日役割確認

(3) 9月7日(金) 第3回役員会出席(Zoom開催)

- ① 第42回十勝地区国際理解教育研究大会(帯広大会)ズーム開催について

(4) 10月21日(木)

- ① 帰国報告会の画像リハーサル(武山主幹教諭、畑中教諭)
  - ・10月22日の研究大会に向け、ICTリハーサル。
  - ・帰国報告会を行う2名の先生が参加し、正しく作動することを確認
- ② 司会者、記録者との打ち合わせ
  - ・司会者の山本先生と、司会原稿をもとに打ち合わせ
  - ・記録者の山口先生と、研究大会当日の動きについて確認

(5) 10月22日(金) 第42回十勝地区国際理解教育研究大会(帯広大会)本番

- ① 帰国報告会の運営について
  - ・司会者(札内南小 山本先生)、記録者(浦幌小 山口先生)と最終打ち合わせ
  - ・帰国報告を行う武山主幹教諭、畑中教諭と発表時間について最終打ち合わせ

(6) 12月9日(金) 第4回役員会の出席(Zoomでの参加)

- ① 令和3年度の国際理解教育研修会の反省について
- ② その他

○ 第42回十勝地区国際理解教育研究大会帯広大会をふりかえって

- ・ズーム開催という新たな枠組のもと、毎年研究部で担当している海外帰国報告会をどのように進めたらよいか、打合せを重ねてきた。当日も、様々な状況の中、司会者の山本先生、記録者の山口先生の臨機応変な対応のおかげで、充実した報告会となった。
- ・当初予定していた集合形式での準備段階で、研修部のたくさんの先生が協力を申し入れてくださり、本当に心強かった。これからもこの結束を大事にしたい。

## 組織部

組織部長 古村 俊大

(音更町立下音更中学校)

- 「世界のともだち 2021 (NGO ブース)」
  - ・ 例年、参加しブースを出展。在外施設派遣を終えた教員による展示行っていたが、今年度は過密を避けるために一般募集もなく実施を断念
- 「国際理解教育研究大会展示ブースの開設」
  - ・ 研究会において、児童生徒への還元として授業内容に沿った国・地域の文化に触れるような展示物(『布』『楽器』『玩具』『衣装』など子どもが実際に手で触れられるもの)によって世界に触れる。また、教員の授業へのアイディアの提供を考え、JICA 帯広から『開発教育教材』の展示などについて予定したが、本年度は集合型の開催方式でなかったため実施せず、情報提供方法を次年度以降、検討していく
- 「会員数拡大と情報提供」
  - ・ 事務局および広報部との連携により会員数の拡大を目指し、国際理解教育への関心を持つ教員へのより良い情報提供を推進していく

## 広報部

広報部長 佐々木敦史

(鹿追町立瓜幕小学校)

- ホームページ更新と充実  
定期総会や研究大会の実施等で、ホームページを適宜更新した。また、本研究会の財産として保存してあった過去の「世界からの声」を、ホームページから閲覧できるようにした。今後、現在派遣されている先生方のレポートは勿論、過去のデータがあれば積極的にアップロードする。
- 広報誌「国際理解教育を求めて」61号の発行



- 『国際理解教育を求めて』第61号をお届けします。今年度より、紙媒体ではなくデータでお送りしますので、よろしくお願いいたします。
- 今年度も新型コロナウイルスの影響で、感染防止に配慮した活動となりました。特に多くの時間をかけて準備を進めてきた第42回北海道国際理解教育研究大会十勝・帯広大会が中止となり、第42回十勝地区国際理解教育研究大会帯広大会はオンラインでの開催となりました。過去に例のない実施方法でしたが、川上会長や事務局が中心となり会員全員の創意工夫で無事開催することができました。規模は縮小しましたが、オンラインでなければ実現することのできない日本人学校からの参加も実現でき、今後の活動に活かすことのできる多くのスキルを得ることができました。
- これからも多様な世界に関わり続ける行動力を身に付けた児童生徒の育成をめざし、力を合わせて研究と実践を進めましょう。